

2023年10月23日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 営業状況

・ 放送収入

9月単月、タイムはラグビーとバスケットボールのW杯により、トータルでは前年比アップとなったが、一方でスポットは東京エリアのシェアは上回ったものの、前年比より少し低い状況となった。

・ 放送外収入

ロングランしている劇場版「名探偵コナン 黒鉄の魚影（サブマリン）」は興行収入133億円、シリーズ第3弾となる映画「キングダム 運命の炎」が55.4億円、「劇場版 シティーハンター 天使の涙（エンジェルダスト）」10.2億円、「ゆとりですがなにか インターナショナル」2.9億円となっている。今週27日（金）からは「愛にイナズマ」が公開となる。

アニメについて、第一話を金曜ロードショーで放送した「葬送のフリーレン」と、先週土曜日より「薬屋のひとりごと」がスタートした。『アニメ化して欲しい漫画ランキング』で上位となっていた2作品を放送でき、話題にもなっている。

イベントについては12月に、SKY-HIさんと当社でタッグを組み、第2回となる「D. U. N. K. Showcase in KYOCERA DOME OSAKA」を行う。また明石家さんまさんが4年ぶりの舞台「斑鳩の王子 - 戯史 聖徳太子伝 - 」の主演を行う。

今年の24時間テレビ寄付金総額が8億2,100万8,847円となった。最終確定は来年6月となる。寄付金をお寄せいただいた皆様のご協力に感謝し、福祉・環境・災害復興などの支援事業に活用させていただく。

2. 質疑他

Q. 10月改編の手応えについて

A. 放送後に好意的な意見を寄せて頂き、上々のスタートが切れたと思っている。

まだ始まったばかりだが、手応えを感じている。

水曜ドラマ「コタツがない家」は、脚本家の金子茂樹さんによるテンポの良い会話劇が話題となっており、久々のホームドラマが間違っていなかったと思っている。石川さゆりさんの主題歌「ダメ男数え唄」もドラマに彩りを加えている。

土曜ドラマ「ゼイチョー ～払えないにはワケがある～」も、2話が1話より視聴率が上回った。菊池風磨さんがアドリブを交えて演技されているので、楽しんで見ていただきたい。AVODも1話放送終了後から8日間で150万回再生されており、手ごたえを感じている。

日曜ドラマ「セクシー田中さん」は、個人視聴率が「ブラッシュアップライフ」初回を上回った。主演の木南晴夏さんがベリーダンスを相当練習して下さっており、そのクオリティーを見て頂きたい。女性に刺さるセリフも沢山あり、好意的な反応が寄せられている。

土曜新番組の「ニッポン人の頭の中」と「メシドラ」も順調なスタートが切れ、このまま視聴習慣を得たいと思っている。

金曜23時アニメ枠『FRIDAY ANIME NIGHT』の「葬送のフリーレン」は、初回金曜口

ードショー2時間スペシャル放送後、大きな反響を得た。普段アニメを見ない方にも届いたことで、若年層を中心に認知度が広がった。配信でも楽しんでいただいている。

「葬送のフリーレン」はX（旧Twitter）で呟かれた数が非常に多く、また原作も100万部重版されたそう。海外でも高い評価を頂いており、今後ビジネスとしても楽しいコンテンツとなっている。

Q. 大晦日の特番「笑ってはいけない」について

A. 年末年始の番組は現在編成作業をしているため、決まり次第お伝えさせて頂く。

Q. 谷村新司さんがお亡くなりになったことへの受け止め

A. 訃報を聞いて本当に驚き、残念でならない。24時間テレビでは、「サライ」の歌詞を視聴者の皆さんと番組の中で作っていただき、毎年加山雄三さんと歌い上げ、番組を締めくくって頂いた。感謝の気持ちでいっぱい。

個人的にもディナーショーへ行かせて頂き、人々の根源的な感動を生む名曲ばかりで、谷村さんは美しく力強く歌い上げていた。お人柄が全てそこに出ていた。裏方ではご夫人が谷村さんを支えていらっしゃる、素晴らしい名コンビだった。心よりお悔やみ申し上げたい。

今年の24時間テレビは、当日病床で奥様と一緒にオンエアを見られ、アリスのお2人と、加山雄三さんのサプライズ出演に嬉しそうにしていたと伺っている。感謝の気持ちしかない。

来年以降の24時間テレビについてはこれから検討だが、「サライ」は歌い継いでいくことになると思っている。

Q. 10月2日のジャニーズ事務所会見の受け止めについて

A. 会見後も申し入れ書を中心に対話、意見交換を続けている。

SMILE-UP. 社に名前を変えた10月17日、具体的な確認のために当社幹部が話しをしてきた。公表されている取り組み、世間から求められている取り組みが早急に、確実に実施が進んでいくよう、注視していくスタンス。

少しずつ課題の解決は進んでいるかと思うが、新しい会社を今後発足し、社名や経営体制も明らかになった時に、補償を行うSMILE-UP. 社とどのように分離され、タレント事業としてガバナンスの利いた透明性の高い経営体制が構築されていくのか注視しながら、今後の取り組みを進めていきたい。

達成度の水準がどの程度かは、ステークホルダーの立ち位置によって差はあると思うが、達成期待に対して、クリアしようとする努力を感じている。

今後の番組起用については、クライアントの考えも尊重しながら、適切な判断をして自主的に進めていく。

会見のNGリストについては、こちらがコメントする立場にはいない。

Q. 一部報道で櫻井翔さんの「news zero」降板が報じられたことについて

A. そのような事実はない。

検証番組の中でも総括しているが、今ジャニーズ事務所が刻々と変化しているなか

で、少し前の物差しで語るのとは、その時から状況が変わっており、違うのではないかと思う。

キャスティングについて現時点では変更無く、新規登用・起用については適切な判断を都度行う。

Q. 「news every.」で放送した検証VTRについて

A. 再発防止特別チームから「メディアの沈黙」の指摘があった直後より、報道局とコンプライアンス推進室の責任者に、当時の実態を調査するよう指示をした。放送したものが全てとなる。

Q. 大手芸能事務所とテレビ局の関係に関する検討や見直しについて

A. 私達が人権に関する広い知見を身につけ、対処すべき問題と考えている。すべてのビジネスパートナーの方々と、人権に対する問題に等しく、適切に対応していく。

Q. NHKの中期経営計画について

A. パブリックコメントの募集が始まっており、当社もコメントを精査している。コストの削減や、衛星・ラジオ波の削減など、これまで長年に渡って肥大化が批判されてきたことへの具体的な対応については、民放などの声も踏まえており、一定の評価が出来ると思っている。

「情報空間全体の多元性確保への貢献」という大きなテーマで、民放との放送設備の共同利用（600億円）や、オリジネータープロファイル参加などの施策（100億円）計上については、民放も含めたメディア産業の将来にとって大変重要なものであると考えている。

Q. 10月15日に放送された「ザ!鉄腕!DASH!!」企画内容について

A. 都立明治公園の整備をお手伝いする企画について、誤解もあるかもしれないという受け止め方をしている。企画そのものはしっかりと進め、誤解の無いように周辺住民の方々の想いを把握し、事業の目的である「自然を守る」「杜（もり）の再生」の企画に基づいた放送を重ねていきたい。

神宮外苑の再開発事業と、Park-PFI事業は同じエリアを扱っているが、中心となって進めているスキームは、それぞれ主体が違う企業となっており、目的も違っている。外苑は伐採が問題となっているとのことだが、このコンソーシアムに日本テレビは出資していない。イベント認知などが必要な場合は、協力企業として関わっていくことになる。

50年ほどコンクリートだった場所に、これから100年続く杜（もり）を作るというコンセプトのため、緑地や公園ではなかったという意味合いで「コンクリートだった場所」と表現したが、今後番組では誤解を招かない表現にしていく。

都立明治公園に日本テレビの関連会社が関わっているが、運営している構造が全く違う。Park-PFI活用事業には日本テレビHDの100%子会社の株式会社日テレ アックスオンが参加している。

株式会社日テレ アックスオンは、事業対象地を世界に誇れる価値ある公園にするため、これまでの番組制作の経験やノウハウを駆使して、新たな賑わいの創出やエリア全体の価値を向上する役割を担いたいと考えている。

番組として「ザ！鉄腕！DASH!!」は長らくDASH村、DASH海岸、DASH島の企画を通して、自然に近い生活や、自然の大事さを共感しながら作っている。2016年から新宿DASHが始まり、都会の真ん中でも作物が出来、虫が増えることを実験しながら進めてきた。その番組が、今度は明治公園の杜（もり）の再生に関わり、役立てるお手伝いをする。

日テレ アックスオンは、番組「ザ！鉄腕！DASH!!」の制作には関わっていない。

日本テレビHDの子会社だが、神宮外苑の開発事業とは別エリアを担当して請け負っており、別認識で行っていく。

Q. 「葬送のフリーレン」など、アニメIP事業について

- A. アニメは現在単独で作ることはほぼ無く、優秀なアニメーション制作会社とタッグを組み、製作委員会として行っている。特に海外では大きなビジネス展開が望める。それぞれ製作委員会が役割を持って共同して大きなコンテンツ展開をやっている。

Q. 巨人軍の原・前監督と、阿部・新監督へのエール

- A. 原前監督は、歴代最長となる17年間チームを率いて、その間2291勝、リーグ優勝9回、日本シリーズ制覇3回と、素晴らしい成果を残された名監督と思っている。本当にお疲れ様でしたという気持ち。テレビにおいても、特に「ズームイン!!サタデー」では歴代キャスターを可愛がってくれ、番組に協力して下さった。日本テレビ全体で改めて感謝申し上げたい。

阿部新監督は44歳という若い指揮官ですので、若さを発揮し、思い切った采配を振るっていただきたい。勝ちにこだわると仰っているので、大いに期待している。

(了)

石澤 顕	代表取締役社長執行役員
福田 博之	取締役専務執行役員
於保 浩之	取締役専務執行役員
澤 桂一	取締役執行役員